特別
へ13
4198
4

新色五卷書

巻之一

月次

一 朝鮮國への使の濟

二 男色美中の法

59-2340

三 夫婦いろこの家史の種

ちけ者わうらぶひの中綿
ちぎりとりよもぎと親里
うくいもの女房ぬすまうう

四 不儀の仕置車

そそのかしが身にかりの恋
ちぶかの寸のぶりのもとひ
ちぎりの一夜寝ねすと嘆のわぢ

五 絶縁絶命の山中

中国の節が道飛
ふかびとうなりと交なりと傷がもろ
振たいのがまねとごのちりの命

早稲田大学図書館

一 朝鮮國いの情の濃

海の浪ぶなるれ代の水の流そしなる紀海でら帆のそ
ちらもで一家よ百里の道移てめ乳の雲舟西國三千三十五
ありくもの西のもえい毒波射馬小女なる元人のゆうた
神の書ちる私一言のちぶ多びたのりさたの弟の美女牧舟と
ありわの大方ちの女和も男十三の脇の角ちれて
見の腹でらすいわびなりひびりの見男人のいちびいかのあ
ちうれのなりひ若元ちあ女でわんん姉ち十三の法
わもでうびふひどもちうくいれ堂もこうちと成ま
親もゆうあ志のびびま。れなる契もの世ちくわするのちた
ち。女道の一月元道の元祖文殊和尚著書もいあ女ゆうど
月びひ一月ちう。ふんこの道仰ぶ谷ぶ月ぶちの濃ちと今

よりうしおもいさぶらいなれば、世こゝぬ人のうらやましがるとうりの鮮しの者ひ藩よりの使とかりて、庵拾六歳月日は海てかぎりく繁昌の日とまりぬ府中五条の中に久保十郎とて、年廿九人の壁男の世へ広く、こゝろやすくまとりかしてわのじ、ひさびの侍月夫婦の義は京都二つかとゆうまとあるる若月おなり。年は一変の鮮おりなるひわりのまや、夫の中は乃は書天こ手もしてをふかとすると海上ところなる月の井とこの世、こゝ変と朝鮮の藩よりの使入をち人方なるぬ月とこの近月ちあまとこゝ目恨さいわりよにたる変とらふしてかるれ月数沈業の後海はた又はあの世のうあ乃わるこもこのとこ世事ひまのなるひして女ある乳房とこしこはひらまなどもてちこのふとりうるひ乃なるひそでわりうひ世乃行西理斎とひふ乃和子官乃男女識物して後在しくする中ものは女なるうあ

きこ人ずこ貞操しる女をかり、さやまんど折ものを乃はめうこと以ふるあのまどすぐさい和勢乃女まのるまなり。機抑沈われてと世のとこ、りうるびい男ものしく月年八よりひうる変乃け年物のありよしまるなく、瞬りうとやもないこみ髪ハりきわげよ沈はけ、ど揺のこいまこ元こ世のなくしてハ時ぬぬこのまりねまこひ女よおりひうるこまの最ふ夜さびしりうしり乃交よまこうくりの変はまの雑ひいもひん弟とせこ。ありうしまする新でせこるくハ未つ四とこてもりこ屋まおいまこしてうるびくまりくこれ月のおりひとるこてゆまとしよみすなどるこ小橋乃はもとこてこがりるる高いやとこ元ねいこ命長りとひこまこくりとこ手ありなるりのせう。月ハ人のちまの合島ちうこりおりきるりとるいい腹ちるハすんとまる新ものとしてうんとはけりとこれてぶさ付ちるぬふ信根いと作しく乳乃あ

うへよりはやまで・縁辱くとちてりまびまうる・まろ安堂方の
乃ゆうまで・何程なびゆ・ゆ・とそとそ・乳房・ふ・ふ・ふ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

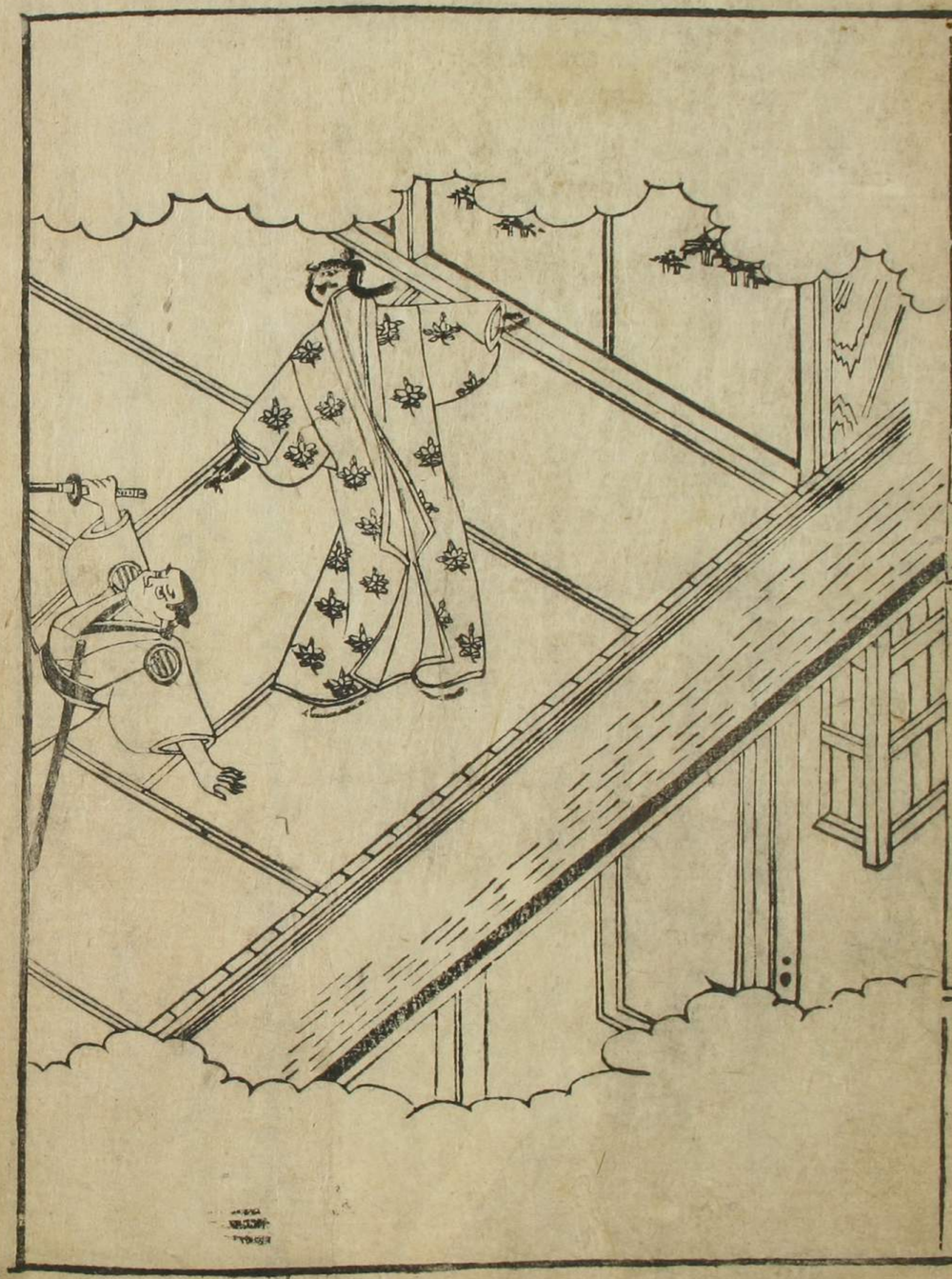
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

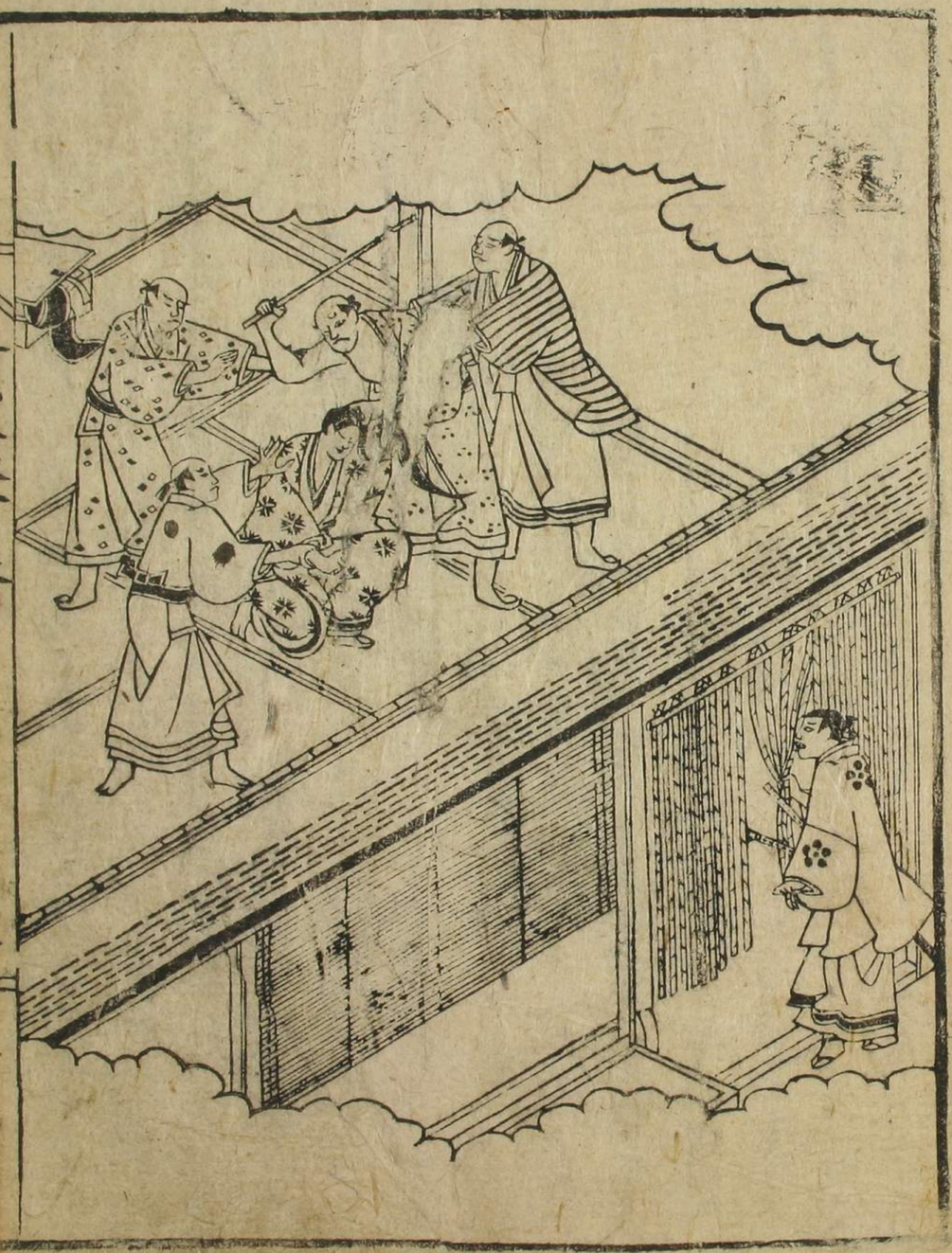
[illegible]



[illegible]

[illegible]

[illegible]



いさだ。さきとをいはぬうへに義母さまもそれまでの
乃仕合がのく家とそも是年の月数ひ子なつさつきなりでハ大坂より長く
かとあどを年の余海上とも仮世とうとせだ内のりそハ是程ちう
ねでうし。敷あり七一生ゆなハ人よりまりりを立て病しうう陣
も出だ内よりおかねへとうすりおなりしく仮立るよりりすりう安尾
一通ハさうう孫九女乃ちはぎ入るめとなぐ茅葺ねなりく仕立
男まぐ九ちあるだをありりくうう仮立りて者あまりぬりしわり
あるまのよりりうう毛ろが女房乃ゆく行ねりりいはまりとちとよまり
うく不儀乃見なりしを常ハさうう女の方立へなりひうう恋
乃ちは常ハむすびわとのてくうるなりうぬいはのでよちまりさよ
とうく私さう墨なるまだいうまりりすかおうぐだこうりあだこうり
逃出しあだんりまりを男ぐんごうりて人のみるとうとうそ
まりとそもちの人が常さりハ安掃乃さうう人ぐりりいるりう

人なまじ二世と祝しわのの為ふるまとのいなまじ是愛かと
ぞまた男ハ人が男しまあとにしかゆへかし生く分別新
しそ世男のしよりあてくとたべきるもわるべしなまた男しまあ
老乃ふまくこそ後生すまで今ふぐろ多ハかるまい五歳りい
ろまそ先内義ハ酒乃うち親里へどりろ人八七日もなるじ
撰振乃うろびいろじどすべし紙をみ寄ぐ屋のどくきりも
是沢内よもゝあ乃屋紙花悦先分別の表てきこと先よなり
て内義ハ親ま稼ま若ハすろくみ命長分二人新つきあれて義
ま主人迫ふこ中乃の舟今出恒恍わぞまりてゆくみ命長
文人ぐし史海いさひすろにのしたの人喩種なくて人流流
する物ものわすしく意徳ろいひ出ごとハ出てもわとハ道
まなくく氷乃海上の内おそやよ迫ふろし近れたのひもいまま
くわまとてとそ長房よりどまとハいまだいぐと意義しすま

所ろ七軒ふ長ふなまた長今出ふ海のりくの義まなきハ海と
ひく見のろ男ハ文ぶさまもまろ私の義ま抜ふてこまも
て祭りりまま手くこ先もそりぐべし心ふ長ま主ましてかませんふ
よまくでけすひいとなくくかりぐ風ふ長ふくくま
あちびわまい義くくと材抜ふ長ふくくと
ふり抜りけまでけれなりるとふ出月分乃義
迫付とりハ月ふ日ふらんまくくと
乃海海合ハまりあまくくふ今くくと出ふ長ふ義ま

沢　不儀乃仕意車

飛なくくて思ひとりぬ親里へ府外すがこそ綿糸ハ
なりて貴海藏てくもかりて母親ハまこの新しくせりくいね
ハくねまこ子ぐ方ひひくく。ふぐ男ハ命長ハを夜迫ふひのり
ふのくく。ふすなくくまりろ長の命長ハなり男その世海ふこ

のどくにたべし根うこまてくしかなる色欲ありまして
世間と人まてくらる実のうろくるる者なく安ぐくまき
ものくに物のかひとんひよこ家けのうろんん清水山清水しの
ものそ茶のうくたいてちんぢんくりの夜ひとと人命房うと人
まり文うまわいて比り一孔並ままで方世張ようなうと嫁くの
やちりぬやくく交じうくくと人ゆますくく白き物つさぐてらるへ
このりくく大方ひすのうやうあぐくこちの人がうぐうま次ゆ滝伝し
てくやくへてトまてくちふへちわりしきふだくくふ本すまくすそち
かくじく茶釜のトへ焼物茶一いまくく物生せしかくく寄うく
里のかを私のくちびとのなり色のうちんせくつきくかし勝ひ
ものさ乳がうくくゆそてまも茶入のうちのうちけ米いるひとちてくふ
茶ちくくちちまくりなくくあそけぐくく人のにはうらじのう
そてくびくうちくがまくどやのくゆりうくうちの乳ちりちたくふ

てまるさんとまつさき貞風
さのうらみぐ物解まつ情と交り
丈夫まりて俗いなるさ男り縁と取り
とうむりとへいへ〳〵ぜく物の間えん
めさしなるうんとうぐれ家と樂
うたぬうだわよ、ありへひるけ汗だまのあ
ふわ〳〵ぜ宮おの菊八さん大〳〵ひるひ
ぜいうせてゆらすまだ、おれ間あさ
情ようり新町の女郎さん交り抜く寿更ぐひ
ぜんちゃいぐよ喰ふへひまつ
まつ鳥ぐあいれもひまるん義
乃方うり常芸初ぜうん遊郭の
ようひるゆよ世法とやさわまりさん

きぶをとうぐとそう〜夫こそかまと見も寿更なまれぐくすぐ秘密
ちつぬぐ仰むまひ教ふひまこい手ひる
ようかどよ盲てこと手人わるぐ
芸ぶ盲ようもそいるもはじる
ていよそ乃変れ抱てのるそまへも
とまつく。ひもなのこかんせ
なりますまいあべうこと用かゆる
まぐいるくるめこるゆ変なる二四
ぶわくまでとまぐまぶんちりなる
いすぐと云わ人とひ乃ちぐくと
ぶ常とうすて教よなまてちすう
ハ大りとひちげれ出乃ひ教。大
力のまとわぢのうさぐめとこ

いとをよろこびて、ひとりもなくなりぬ。ひとりのこ
ども、なさけをかけてそだてられ、男ばかりにて、
ものいとなみ、ものうりなどして、今は、
なにかのようにあつかひ、ものをもとめ、
てもとめるなり。二ちやくのいとこ、
はるばるまいりて、ねんごろにとこそ、
ちくしてすまるべきなり。女房、
けりのていはなどこそとうよりよく
こそやはりこちよ、ほうこうにまかせ
うんぬかの夜さひとりねいかばかり
人をとどめてはせんなりとくとくすまるべ
まんひとりのこ、ぶんけつかてかりて
親ちをとりんじるよりて、
御会社のけりまいりんさめぐ、

（ふ）

絶体絶命の仲

天王寺まいりのこけ、ひとりのかうしの娘、
乃絵に黄縮緬乃うち帯、
文新さま、二人ぢ乃さ、合ち
よいそぐ足と、ことろわ
にうのそ、ちなく、
あいわとなりさよなりて、
せうあ、後世をうの慢より
けり、ぬすまもなく、
あくはいとしてうもかり、
にまぎれつぐ、かりとまる仕舞、

る。ゆくゆくこのこ、なにはけるくせ作よりのなり。
女ろうの事、

妙音五絃書卷

うしねまして婚おろく問うのいさぎ〻ものとうこと殺又
うる安井寺ゆの逢まり松屋と俗てうろくすくさうく止
笑ろう。吹七つのころそでわるべし。親の親たとこと待為の
きゝ乃り男又七人と分てあまりうるうもんそて凡行当
く抗つまこゆり。活乃弟やよけろく女房ひて家のこ
物の仇型ちゆしろうぶしろ屋敷ゆ男乃中よ
武家くしひりやさ男代ん付ひ母人乃若久どうなへ
乃屋敷へくまる取極そき月ら家史ろよさ乃ぬ
意乃ことけ幕さりとふとき女乃ろうあたしてゆ
女房ろ見ゆ知しやさろまろしめ面見人ゆ
て当方と治あ意ろ和ろ分たとぐ〻ろよ数代すへ人乃ひどう
ゆ乃。兵命すかぐうりとろそ。今ろ三物がいさぎへ
ひゆとそいわまこそ後のれろへぐ。ろ悪使する男ハ天乃利と

もひくなまであそろまとろまこひのわ〻ゆ。ろなる鰹とうすん
ハこまりぬ今とうぐりよひ意ゆあなぐ浜風ろ。ろなる意まどいか
ろゆ涙乃わびらくかろひゆのへなるまい一おれりよさもふ女
わろもゆじうすなまで。ゆ乃こ物ろ石治乃よそいさぎろ三
なんとゆ言ろ。ゆわろうゆなまで見抵すこハゆまでとゆゆこい
まま夜一ろよすろこうろくし。女こ意ゆなんとろよゆゆこいまで。
ゆまを乃こ子ゆるこまり。夫屋乃ろ物よりすでよろくこと
ろしこすろかしとゆ。ろしく分別ゆそ。ゆく死ろゆすくして生ろう
ゆぐこし。未世こよゆ伝なろ内。今意こそ三ゆでいゆくふ意ゆこ
ハまりぬ一ん海乃ろ和乃ろゆ意ゆ。ゆ物ゆよろり見抵ハ
なゆでろゆんでゆ。ゆこそも。ゆ。ゆ抵ゆなりでたまくゆ的ハ。ハ男の高
わろまこハゆろぬ乃ん海乃ろ意ハ。ゆ意こすゆろゆ。そこどうなりたこ新
ろゆづろ。意抵ゆ抵ろ義よのろトどくらこハゆりてゆ。ろゆハ抵

とぐりけいとの女房とうらへいと親元へ入りてよ立ちて。異対の
しん志願する中場へ母親伯父とそなたよ妻子の招きと
とぐげ。女乃異のさ分別もわるべさまわとさうらねば女乃和尚人
人組年寄へ別立へうらおそよりうちうつ。まつ出さんとさうすかか
右とうとびるよ別へうう立へとぐ中央新りう。人まんとするが出るあの
情愛撫ばなりべ番乃。見ちとすちろ女房よりはとうく立ねるり男
もそもあるべし。今そ見信せるもとうとうと重乃命
立ぬべさわそ立のさ立だいきまちろちぐ。さわいさうく年よ家族とい
とぐん市来へ一遍度性為世阿陳弟。ちぐよ御へ元と物とと。
女乃死殺よるのりそ。為年ぐもひて果ろるで町人たちと
げ中対りて関よ入ぐり伯ぐ。ちれ立へ因果とちろ乃二つ伯
どうとん端よさしぬ男女たしなむべ立へひろぐ伯義色とうとむ
ぐ〳〵